

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

2020年6月22日

京都府知事 様



提出者

住 所 香川県高松市朝日新町32番地45号

氏 名 タチバナ工業株式会社

代表取締役 本杉 成美

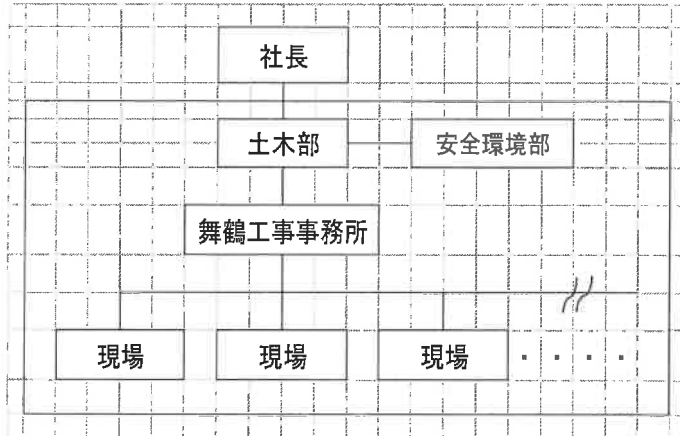
電話番号 087-851-6848

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	舞鶴港第2ふ頭地区岸壁(-10cm)改良工事
事業場の所在地	京都府舞鶴市松陰(第2ふ頭)
計画期間	2020年4月1日から2021年3月31日まで
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	建設業
② 事業の規模	元請完成工事高 14億768万円
③ 従業員数	115人
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	<p>産業廃棄物一連の処理の工程</p> <p>① 発生抑制 産業廃棄物の発生を抑制できる工法採用や、必要最小限の資材等の購入を行う。</p> <p>② 再生利用 繰り返し使用できる資材等は丁寧に扱い、再利用を徹底する。</p> <p>③ 中間処理 産業廃棄物の分別を徹底し、再資源化を行う処理業者への委託を推進する。</p>

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（2019年度）実績】					
	産業廃棄物の種類	がれき類	汚泥	建設混合物	廃プラスチック	金属くず
	排出量	1446.22 t	14.30 t	3.64 t	0 t	0 t
	<p>(これまでに実施した取組)</p> <p>令和1年度は、一現場で1,000 tを超えるがれき類が発生したため排出量が多くなりました。</p> <p>工事現場から排出する建設廃棄物については再生資源化施設の活用により再資源化に努めました。</p>					
②計画	【目標】					
	産業廃棄物の種類	がれき類	汚泥	建設混合物	廃プラスチック	金属くず
	排出量	20 t	6 t	6 t	2 t	6 t
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>工事現場で発生する産業廃棄物は、その全体量の80%以上がリサイクル可能な副産物であると考えられるので、今後も現場内で徹底した再利用と分別を行った後に、中間処理場へ搬出し、出来る限りの再資源化に努めます。</p>					

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	<p>(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)</p> <p>がれき類は、コンクリート殻やアスファルト殻の分別を徹底して行った後、中間処理場へ搬出しました。</p>
②計画	<p>(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)</p> <p>上記に加え、木製型枠などを丁寧に扱うことで再度利用することが可能な資材は、その再利用を促進し、産業廃棄物の発生を抑制します。</p>

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状	【前年度（2019年度）実績】					
	産業廃棄物の種類	がれき類	汚泥	建設混合物	廃プラスチック	金属くず
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 実施しておりません。					
②計画	【目標】					
	産業廃棄物の種類	がれき類	汚泥	建設混合物	廃プラスチック	金属くず
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 現時点においては自ら行う産業廃棄物の再利用を行う予定はありません。					

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度（2019年度）実績】					
	産業廃棄物の種類	がれき類	汚泥	建設混合物	廃プラスチック	金属くず
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
(これまでに実施した取組) 実施しておりません。						
②計画	【目標】					
	産業廃棄物の種類	がれき類	汚泥	建設混合物	廃プラスチック	金属くず
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
(今後実施する予定の取組) 現時点においては自ら行う産業廃棄物の中間処理を行う予定はありません。						

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現状	【前年度（2019年度）実績】					
	産業廃棄物の種類	がれき類	汚泥	建設混合物	廃プラスチック	金属くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 実施しておりません。					
②計画	【目標】					
	産業廃棄物の種類	がれき類	汚泥	建設混合物	廃プラスチック	金属くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	00 t	0 t	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 現時点で、自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分を行う予定はありません。					

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（2019年度）実績】					
	産業廃棄物の種類	がれき類	汚泥	建設混合物	廃プラスチック	金属くず
	全処理委託量	1446.22 t	14.30 t	3.64 t	0 t	0 t
	優良認定処理業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	再生利用業者への処理委託量	1446.22 t	14.30 t	3.64 t	0 t	0 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 産業廃棄物については、設定を受けている処理業者に委託し、その処理を行っています。					

		【目標】					
		産業廃棄物の種類	がれき類	汚泥	建設混合物	廃プラスチック	金属くず
②計画	全処理委託量	20 t	6 t	6 t	2 t	6 t	
	優良認定処理業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	
	再生利用業者への 処理委託量	20 t	6 t	6 t	2 t	6 t	
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>今後も、産業廃棄物の処理は、設定を受けている処理業者に委託し、その処理を行います。</p>						
※事務処理欄							

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。